

公益財団法人朝日新聞文化財団 2020年度事業計画

(はじめに)

2020年度政府経済見通しは、実質1.4%（名目2.1%）のGDP成長率を見込んでいる。しかし、英国がEUを離脱する欧州はじめ中東情勢、米中関係など先行き不透明なことに加え、新型コロナウイルスの感染拡大による景気の下押し圧力もあり、予断を許さない状況だ。

財団の助成事業を賄う基本財産の運用収入は、国内の低金利下で預金の利息収入は低調が続き、株式配当も増加基調は見込みにくい状況にある。大阪国際フェスティバルの開催に当たっても、地元の経済環境は厳しい状況にあり、一層の協賛金集めや集客の努力が必要になっている。このような中で、事業の公益性に留意しつつ、助成事業では対象の吟味を深めてメリハリの効いた助成とするほか、音楽公演ではさらに内容に磨きをかけることによって、事業の安定化を目指したい。

(事業計画の柱)

- ① 2020年度の第58回大阪国際フェスティバルでは、東京オリンピック・パラリンピック開催年を記念して「大阪4大オーケストラの響演」に充てた特別積立金を原資に、ベートーヴェン生誕250年、4大シンフォニーのスペシャル公演を実施する。大阪ならではの春恒例の企画のさらなる定着を図るとともに持続可能な事業としての基盤強化を目指す。
- ② 芸術活動助成においても、東京オリパラ競技大会を機に国をあげて文化芸術の価値を世界に発信する機会となることから、昨年度に引き続き、特別積立金を乗じて助成を実施する。ただし、寄付金収入が減少傾向にあることを踏まえ、100万円を限度に申請の満額を助成する特別助成を継続する一方で、10万～20万円の小口助成はより対象を吟味し、メリハリを効かせた助成をめざす。
- ③ WEBによる助成受付やフェイスブック（FB）による助成・音楽事業の広報やコミュニケーション活動を強化し、公益性の観点を保持しつつ効率的な財団運営を目指す。

(主な事業内容)

1. 音楽会、美術展覧会等の事業に対する助成（定款第4条1）

音楽祭、美術展覧会の開催等の芸術活動に対し助成する。20年度実施事業の申請受付は

19年11月28日に締め切り、20年2月3日（美術分野）と2月4日（音楽分野）に芸術活動助成選考委員会を開催。今年は323件の応募があった。また、今年と来年は東京オリンピック開催に向けた芸術プログラムの強化期間にもあたるため、2300万円の通常助成に加え「2020芸術活動特別助成」として1200万円を、特に芸術性に優れた事業を選定して支給する。なお、特別助成原資は「2020芸術活動特別助成資金」として積み立てた特定費用準備資金（特定資産）から充当する。助成は計145件、3500万円の予定。

WEBシステムに一本化した受付事務については、電子申請システムの改良を重ね、また、付帯した機能を活用することにより選考作業の効率化と質的向上とにつながっている。また、助成対象事業の情報発信や助成先とのコミュニケーション強化のためFB活用と訪問活動をより一層高める。

2. 文化財の保護等のための事業・活動に対する助成（定款第4条2）

2020年度の実施事業は19年6月中（WEBは7月5日まで）に申請を受け付け、9月の文化財保護助成選考委員会で48件の申請の中から継続複数年事業を含め32件、合計6588万円の助成を決定した。また、文化財保護や修復・公開の重要性を啓蒙普及するシンポジウム等のイベントの朝日新聞社との協力開催も継続する。本年度も助成申請はWEBと書類との並行受け付けを継続し、FBや直接訪問を含めた助成事業のフォローアップ活動を充実させていく一方で、当財団の助成金制度をより広く認知してもらうための関係者への訪問や情報交換なども強化していく。

3. 文化・学術等の向上に寄与した者に対する顕彰（定款第4条3）

芸術家、研究者等に対する顕彰を目的として朝日賞を贈呈する。近年の業績を主な対象に幅広く候補者を調査し、例年11月末から12月初めに開く朝日賞選考委員会で若干名を選定する。

4. 音楽会等の公演の主催（定款第4条4）

第58回となる大阪国際フェスティバルは、4月18日『大阪4大オーケストラの響演 スペシャル』で開幕する。4楽団がそれぞれのオーケストラ編成で、生誕250年を迎えるベートーヴェンの4大シンフォニーを演奏する。東京オリパラ開催年に向けた芸術プログラムの強化として積み立てた1480万円を「大阪4大オーケストラの響演」に充て実施する。

5月30日には飯守泰次郎指揮で創立50周年を迎える関西フィルハーモニー管弦楽団が楽劇『ニーベルングの指輪』を演奏会形式で開催。7月31日は海外のバレエ団で活躍する日本の若手ダンサーたちによる『ブライトステップ×アーキタンツ』を初開催。11月6日はゲルギエフ指揮による秋恒例のウィーンフィル管弦楽団公演で閉幕を飾る。

以上